

# 平遥古城における晋商と空間構造の関係

The Relationship Between Shanxi Merchants and Spatial Structure in the Ancient City of Ping Yao

許 凱欣  
XU KAIXIN

## 1. 序論

### (1) 研究の背景

中国歴史文化名城 138 か所においては、観光業の発展により、名城に破壊をもたらしたと指摘されている。

中国山西省晋中市平遥県に位置する平遥古城（面積 2.25 km<sup>2</sup>）は、中国国家歴史文化名城（1982）および世界文化遺産（1997）に指定・登録された。これにより他の歴史文化名城と同様、観光業が大きく発展した。しかし、現在、平遥古城を訪れても、他の古城と同じようにみられ、古城の特徴は来訪者に伝わっていないと指摘されている。

19 世紀末期 20 世紀初期、「票号（中国銀行の前身）」が発展し、当時の中国における経済の中心地として、全中国の貿易と金融に影響を及ぼした平遥文化は、晋商（14 世紀中-20 世紀（明清時代）における山西省の商人）に関わる無形も含めた文化財に独自性があるとされている。ただ、平遥古城は本来、伝統的な都市計画および晋商の発展によって都市整備が進み、その後為替業務で栄えて中国の金融中心地となったことが知られている。しかし、平遥古城全体の空間構造における、造営当初の礼制と晋商の関係は明らかになっていない。

都市として発展してきた平遥古城の特徴を来訪者に伝えるためには、まずは平遥古城全体の独自性を明確にし、その上で各文化財を評価する必要がある。そのために、晋商と平遥古城における都市空間の利用と構造の関係を把握し、整理する必要がある。

### (2) 研究の目的

本研究は、晋商の中心地であり空間の変遷を追うことができる平遥古城において、都市空間の利用と構造が、晋商によってどのように変容して現在に至っているかを把握し、平遥古城における都市空間の特徴と形成過程を明らかにすることを目的とする。

具体的には、伝統的都市計画の要素と、商業施設および金融機関を中心に、行政や宗教等各種施設がどのように関係したのか、城内での空間的な広がりや繋がりやを把握し、その関係を規定した社会的文化的要因を考察した上で、今後の平遥古城における特徴の保護及び創出に関する考え方を検討する。

### (3) 研究方法

文献調査を通じて、平遥古城の概要、特徴、晋商特徴と他の特徴の関係を把握した。第三章では、晋

商の歴史と平遥古城の造営過程の整理から時期を区分し、晋商と平遥古城の関係を考察した。第四章では、平遥県誌等の史料を元に、ArcGIS を用いて晋商による空間構造の具体的な表出を整理し、空間を規定した社会的文化的要因を分析した。結論では、以上の内容をまとめて、平遥古城の特徴とその要因を考察し、平遥古城の現状を踏まえて今後の展望を行った。

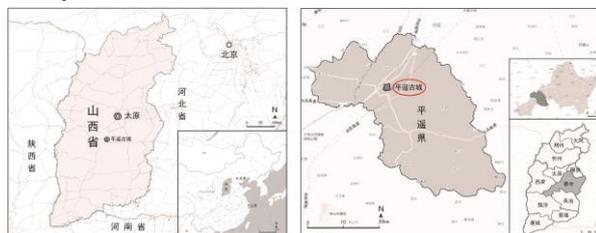


図1:平遥古城地理位置

## 2. 平遥古城の概要

世界遺産登録、中国国家歴史文化名城指定、先行研究を踏まえると、平遥古城の特徴は、「礼制」に基づく古代中国都市計画、四合院（典型的な中国北方建築様式）の古民家群、「一城五堡二寨」の防御システム、多様な宗教建築、晋商にかかわる文化財、平遥の非物質文化遺産とされている。特に、晋商に関わる文化財（票号、四種類の晋商民居、商店街、関帝廟等）は平遥古城の独自性として捉えられるようになった。このように、平遥では、大小様々なスケールにおいて特徴があるとされている。

## 3. 晋商と平遥古城の造営

### (1) 晋商の活動に基づく平遥の時期区分

明清時代、中国における「十大商幫（地縁で結びついた中国各地の商人集団）」の中でも、「晋商」は最も隆盛したと考えられる。晋商の歴史は大きく、晋商発展期（1370-1823）、晋商隆盛期（1823-1914）、晋商衰亡期（1914-1921）の三期に分けられる。

### (2) 平遥古城における晋商の歴史

平遥古城における晋商の商業活動史と先行研究（三冊の平遥古城県誌と都市計画）を踏まえ、平遥古城における都市空間の変遷を、①晋商定着前期（西周-明洪武三年（西暦前 8 世紀-1370 年））；②晋商発展期（明洪武三年-清道光三年（1370-1823））；③晋商隆盛～衰亡期（清道光三年-民国十年（1823-1921））；④晋商衰亡後期（1921-今）の 4 時期に区分した。

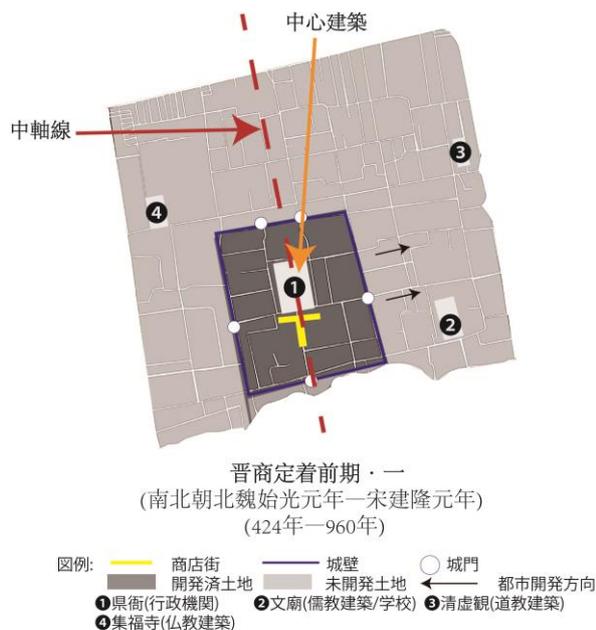


図2: 晋商定着前期における平遥古城空間構造

①晋商定着前期 晋商が定着する前、平遥では礼制に基づいて、中軸線上に中心建築として行政機関の県衙が整備され、商店街は県衙前のT字路にとどまっていた。また、他県と平遥を繋ぐ道路上に宗教建築が整備された。

②晋商発展期 晋商が定着し発展していくにつれ、商店街はT字から十字、さらに土字へと拡大した。商店街が中軸線になり、商店街を管理する金井市楼が整備され、古城の中心建築となった。

③晋商隆盛～衰亡期 票号が商店街の中心に開設され、平遥古城が中国における金融業の中心となると、商人の地位は向上し、関帝廟など商売に関する宗教建築が整備された。清政府が崩壊し、戦争によって不景気になると、平遥古城に晋商はそれぞれ倒産してなくなった。

④晋商衰亡後期 平遥古城は文化遺産として、歴史文化名城指定および世界文化遺産に登録され、民居は用途転換されるなど、観光地化が進んだ。晋商は平遥古城の象徴として捉えられるようになった。

#### 4. 平遥古城における「晋商」の具体的な表出

山西省において他県同士を結ぶ交通網の中心に位置しており、広域的に交通の要所であった平遥古城では、他県に通じる街路を中心に街が形成された。

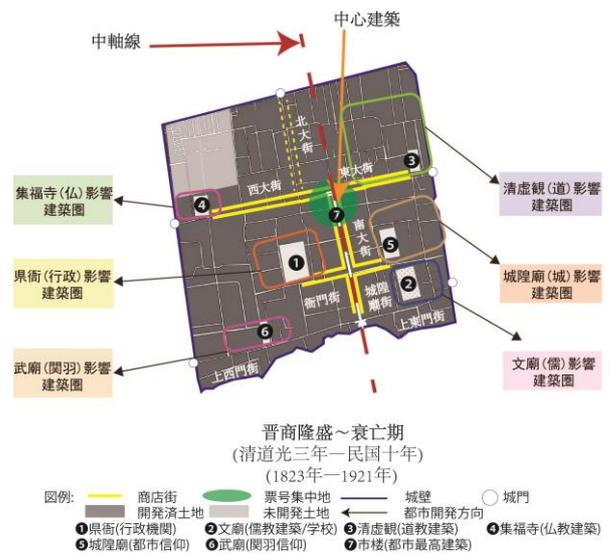


図3: 晋商隆盛期～衰亡期における平遥古城空間構造

他県に通じる街路上に宗教建築が整備されると、その周辺に複数の宗教建築が整備されて建築圏が形成され、建築圏同士を結ぶ街路が新たに整備された。これらの街路に沿って開催された、市集と宗教建築中心の廟会を契機に商店街が展開していった。商店街が発展すると、古城の中軸線が行政機関から商店街に、中心建築も行政機関から金井市楼に移動し、その中心に票号が展開した。

官僚を象徴する儒教建築である文廟周辺では、市集や廟会が行われなかったため商店街は展開されず、代わりに成功を収めた商人たちが住む大院民居が多く建造された。

#### 5. 結論

本研究は平遥古城における晋商と空間構造の変遷を明らかにした。空間構造は伝統的な都市計画である礼制に基づいて整備され、宗教建築や交通路とのかかわりの中で晋商が出現し定着していった。晋商が発展すると、中軸線や中心建築、宗教建築といった礼制の諸要素が変容し、晋商に関係する建築物が平遥古城の中心となった。このように、平遥古城の空間構造は、伝統的な都市計画に則った晋商の展開を表象している。平遥古城の特徴を保護し活用するためには、晋商だけに着目するのではなく、建築物や街路について、票号と宗教建築など晋商前後に分けてその関係を整理し、方策を検討する必要がある。

**Abstract:** Ancient city of Ping Yao is comprehensively reflecting the traditional town-planning of Han people over the period from Ming and Qing Dynasty. And in the second half of the 19th century as the centre of banking in China, Ping Yao had a profound effect on the modern economic development of the country. At the same time, the spatial has been affected by the commercials. In the paper, we explored the development of the Shanxi merchants and the change of Ping Yao' spatial structure. With the analysis of inner logic and social factors, we made clear the relationship between them.